

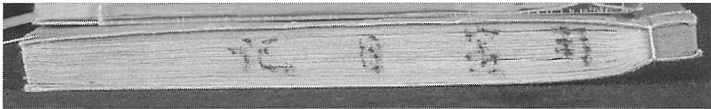
江戸東京博物館史料叢書

勝海舟関係資料

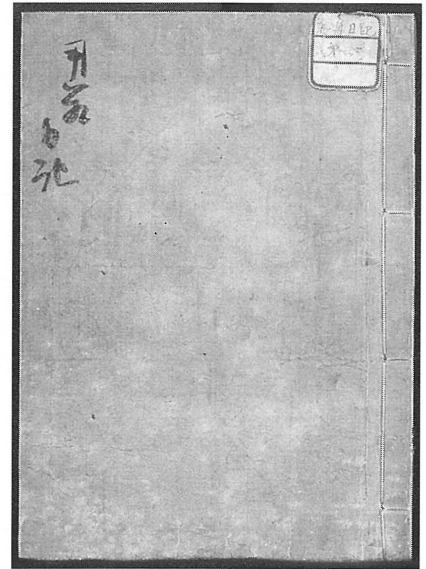
海舟日記

(三)

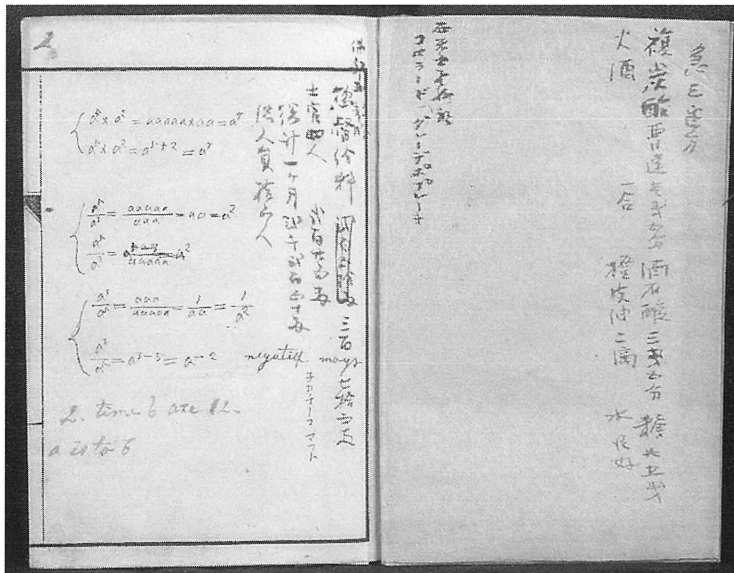
東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室編



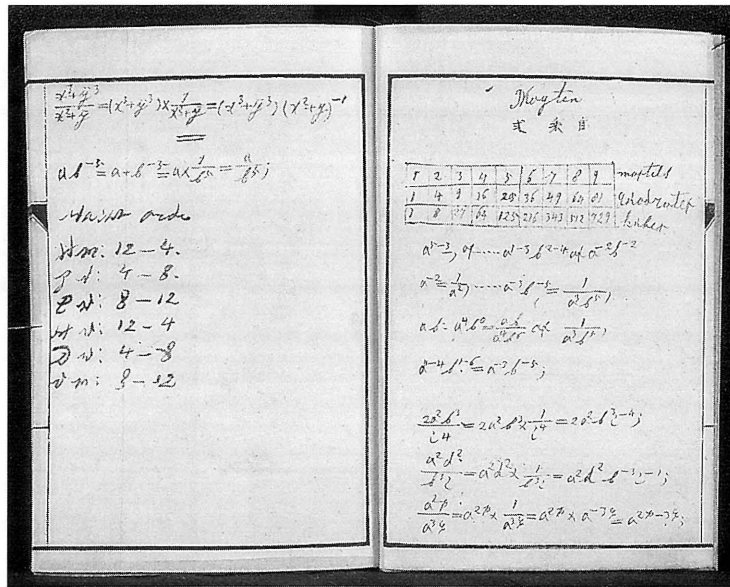
2. 「海舟日記 六」地の書き入れ



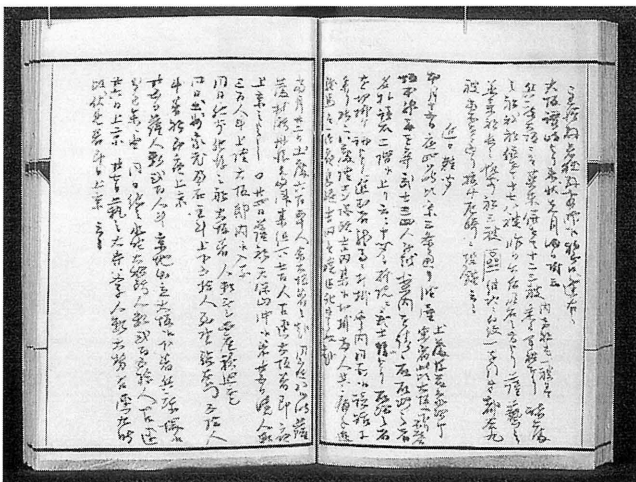
1. 「海舟日記 六」表紙



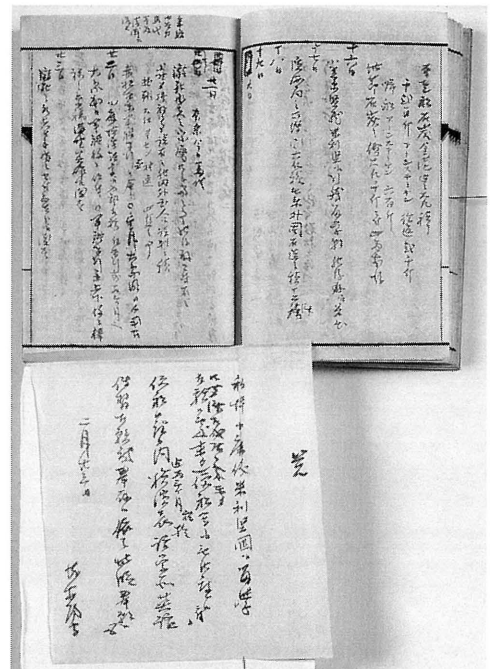
3. 「海舟日記 六」見返しと1頁



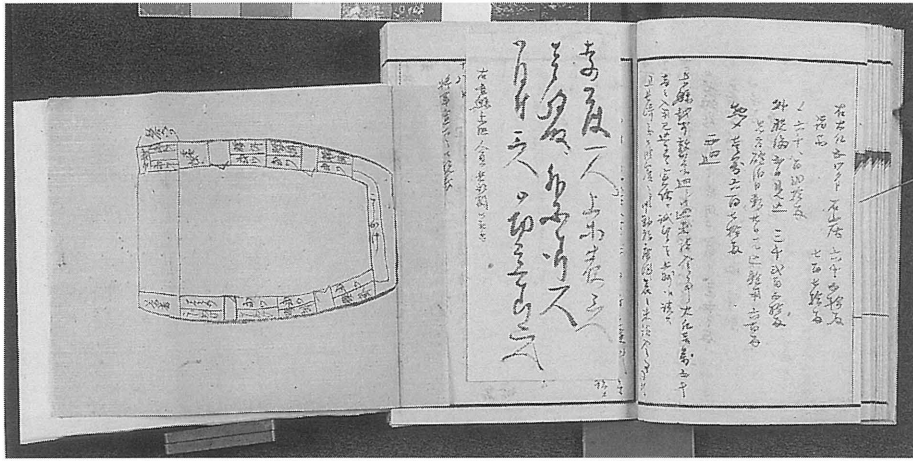
4. 「海舟日記 六」 3・4頁



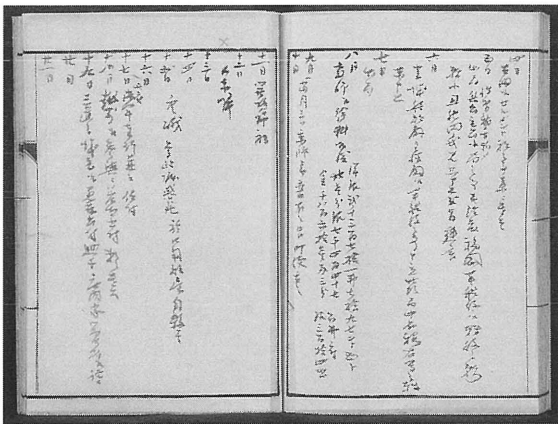
6. 「海舟日記 六」 慶応三年十二月六日条に書かれた旗の図



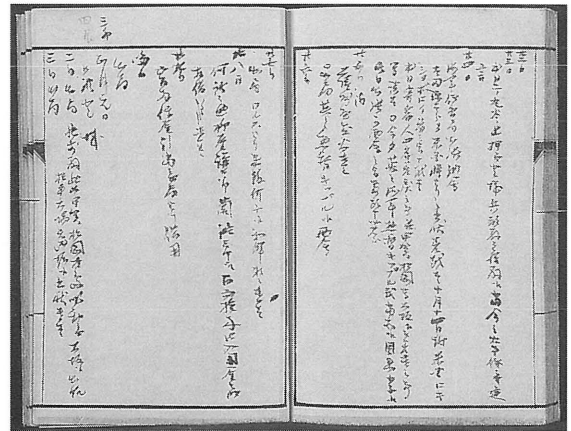
5. 「海舟日記 六」 慶応三年二月廿二日条下に貼付された文書



7. 「海舟日記 六」慶応三年三月十八日条付近に貼付された文書と船室の図



9. 鉛筆による書き込み（慶応四年正月十二日条の上欄）



8. 鉛筆による書き込み（慶応四年正月元日条の上欄）

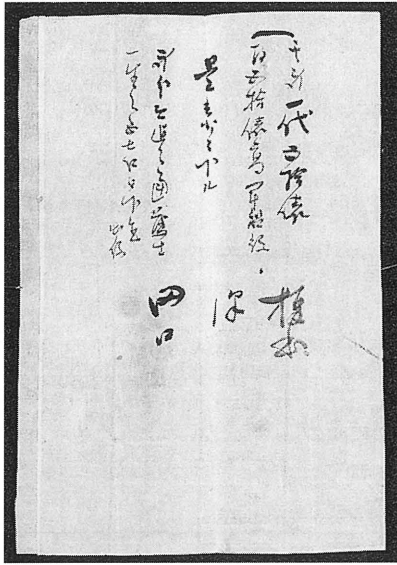
二月廿七日 昔 爲 病 之 井 悅 之 主 在 去 日
 步行 佐 之 大 行 李
 才 行 李
 一 百 位 之 共 十 五 抽 物
 象 皮
 小 行 李
 樽
 右 部 始 凡 之 終 止 以 引 物
 一 七 一 六 三 二 一 七

10. 「海舟日記 六」に挟みこまれた文書(1)

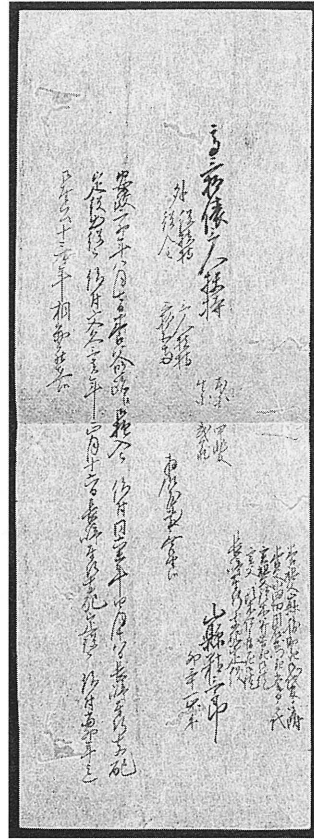
四百俵 二金 一割 米百三俵 一斗 一升 六合 此金四百十兩 五分 六厘	米金合 五百八十六石 程 合七百三十五石	二百俵 二金 一割 米六俵 六像 一斗 三升 二合 此金二百十兩	米金合 二百九拾四石 九拾四石	都合 九百九十四石
--	-------------------------	--	--------------------	-----------

前後
 金
 金

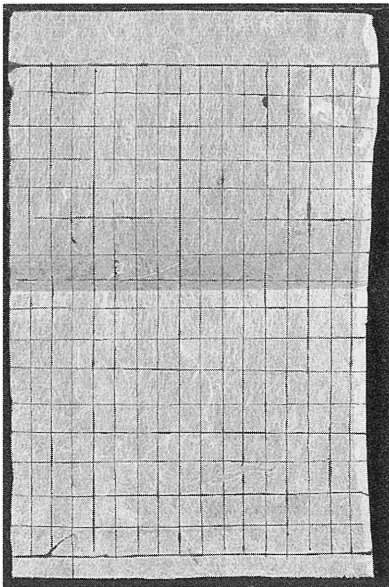
11. 「海舟日記 六」に挟みこまれた文書(2)



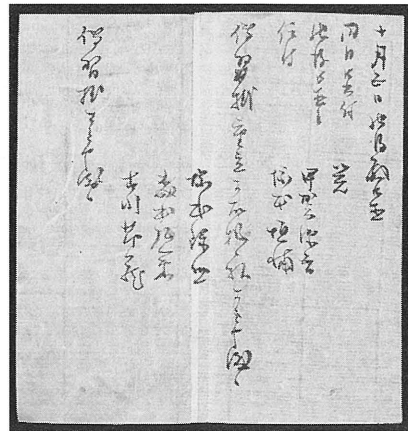
13. 「海舟日記 六」に挟みこまれた文書(4)



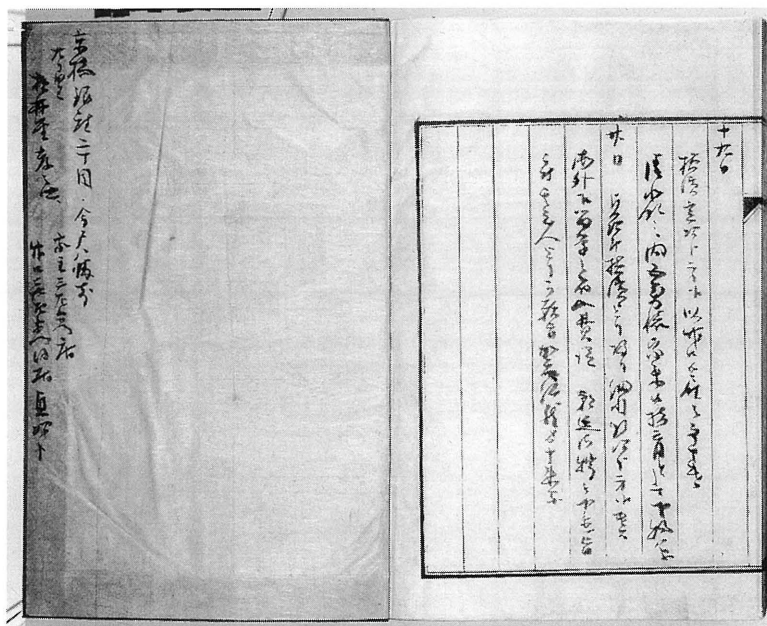
12. 「海舟日記 六」に挟みこまれた文書(3)



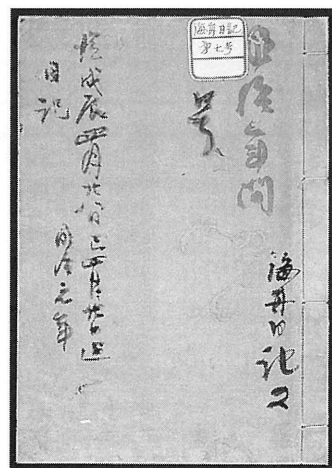
15. 「海舟日記 六」に挟みこまれた方眼紙



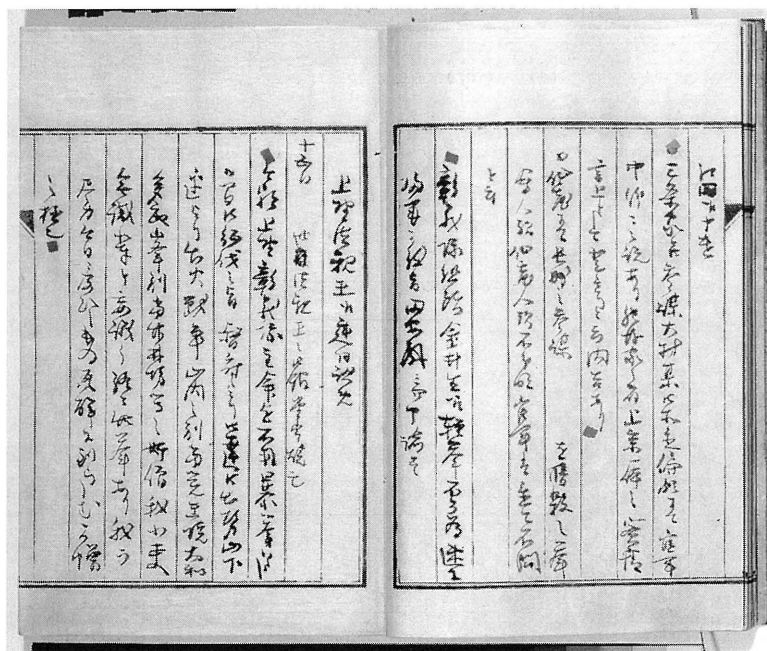
14. 「海舟日記 六」に挟みこまれた文書(5)



17.「海舟日記 七」巻末部分



18.「海舟日記 七」表紙



19.「海舟日記 七」慶応四年五月十四・十五日条に貼付された紙片

Handwritten Japanese text on a folded paper, likely an endpaper or flyleaf. The text is written in a cursive style and includes the characters "七" (Seven) at the top left and "五" (Five) at the bottom left.

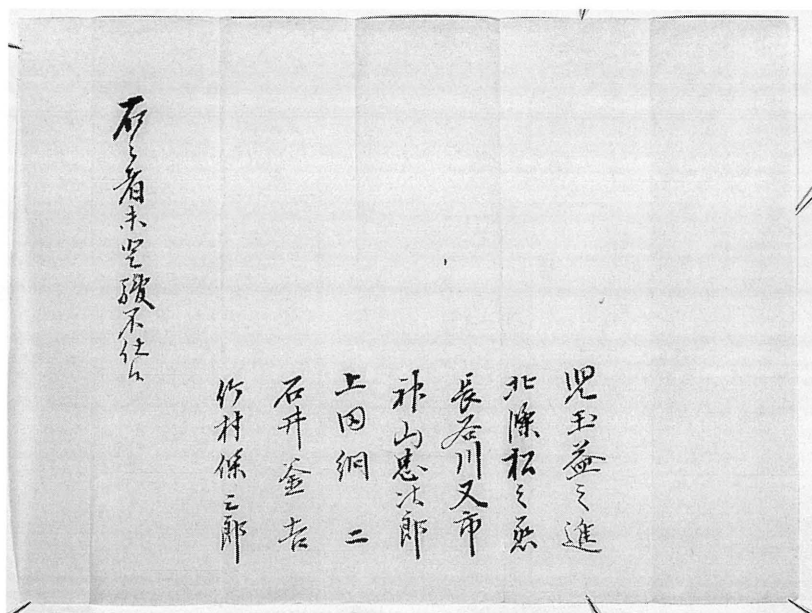
20. 19の端裏書

Handwritten Japanese text on a folded paper, likely an endpaper or flyleaf. The text is written in a cursive style and includes the character "七" (Seven) at the top right.

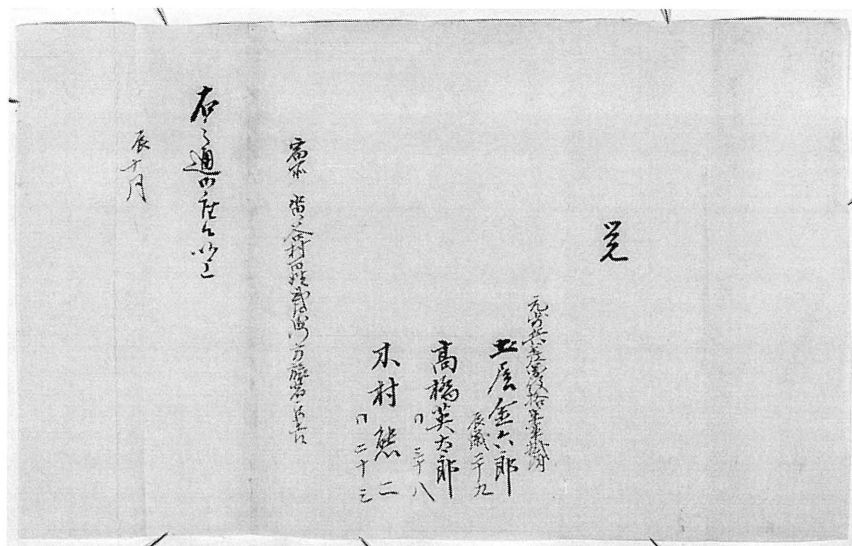
19. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書(1)

Handwritten Japanese text on a folded paper, likely an endpaper or flyleaf. The text is written in a cursive style and includes the characters "七" (Seven) at the top left and "五" (Five) at the bottom left. There is a small calculation at the bottom right: $\frac{10 \times 10}{250}$.

21. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書(2)



22. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書（3）



23. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書（4）

法保...
 大聖...
 秋山...
 三入...

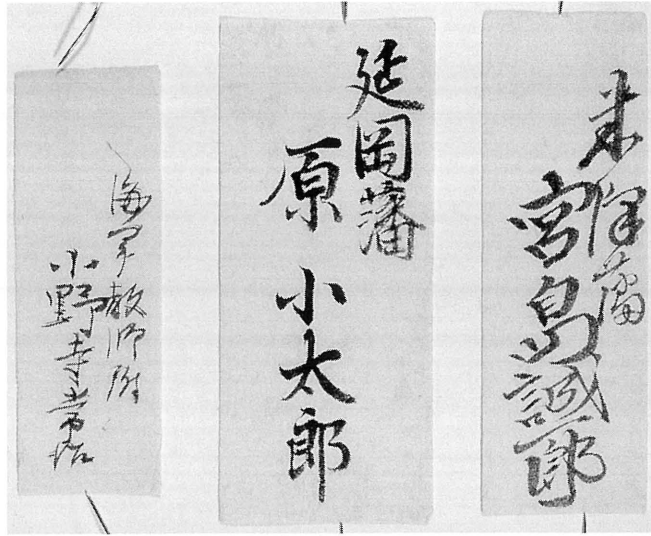
25. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書 (6)

元高井塔儀之持
 伊波想輔
 己歳二十七
 安政四年九月...
 十月...
 十一月...
 十二月...
 出役被...
 同二年...
 明治元年...
 被命當...

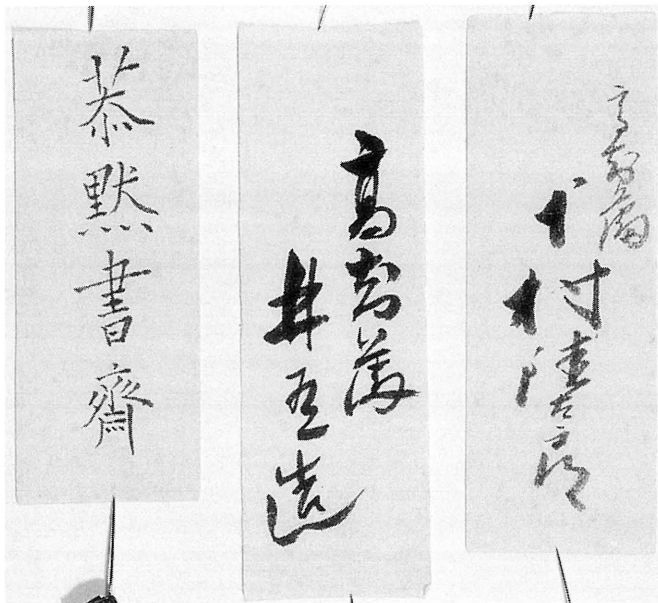
24. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書 (5)

意...
 及...
 松浦...

26. 「海舟日記 七」に挟みこまれた文書 (7)



27. 「海舟日記 七」に挟みこまれた名刺 (1)



28. 「海舟日記 七」に挟みこまれた名刺 (2)

凡 例

一 本書は、東京都江戸東京博物館所蔵勝海舟関係資料のうち、「海舟日記」第六冊～第七冊（資料番号942017

01～94201703）を翻刻したものである。

一 本文編は、中段を本文とし、上段に原書野紙欄外に記された補記などを記し、下段には本文等に関する註を適宜付した。なお、註に記す藩名は、藩庁の所在地名を原則としたが、長州藩・薩摩藩のように通称・別称が一般に通用しているものは、これを採用した。

一 翻刻にあたり、原文書の様式を尊重するようにつとめたが、編集の都合により、原文書の形態を損なわない程度に、つぎのようにした。

- 1 日付は、便宜上ゴシック体にした。
- 2 文中に適宜、読点（、）および並列点（・）を加えた。
- 3 漢字は、当用漢字・常用漢字にあるものは、原則とし

てこれを用い、ないものは正字を用いた。また、異体字は「扣」「抔」は原表記のままとし、それ以外は当用・常用漢字に改めた。

- 4 宛字・誤字・衍字はそのまま表記して、右傍に（ママ）（衍カ）を付した。正しい文字がわかる場合は、右傍に（〇〇カ）と記した。ただし、以下の文字は「海舟日記」で常用されている宛字で、文字の用法としては的確ではないが、とくに注記はしなかった。なお、宛字のうち「趣」の意で多用されている「赴」については、読む上での便宜上「趣」に統一した。

阪（坂の宛字） 義（儀・議の宛字）

大低（大抵の宛字） 太夫・太輔（大夫・大輔の宛字）

- 5 変体仮名は、原則として同音の平仮名に改めたが、助詞の「而」「得」「江」「之」は原文表記のままとした。また、「箇所」「斯様」「一箇」などの「カ」「コ」を表す

ケは残した。

6 合字は平仮名にあらためた。

7 欠損、または判読不明の文字は、□□(字数分)、「」(字数不明)で示し、触損などは右傍に(虫損)(欠損)と記した。

8 踊り字は、漢字は「々」、平仮名は「ゝ」、片仮名は「ヽ」を用いた。大返しは「くく」(字数分)を用いた。

9 本文中の補記や加除訂正は、原型を活かすようにつとめ、当該箇所(訂正あるいは削除された文字)に見せ消ち「ゝ」を付した。

10 朱書は、右傍に(朱書)と記した。

一 卷末に、本書の解説を付した。

一 本書は、近松鴻二(当館学芸員)・落合則子(同)・石山秀和(当館専門研究員)・高山慶子(同)・田原昇(同)が編集にあたり、藤田英昭(中央大学大学院生)・大沢恵

(学習院大学大学院生)・磯部孝明(立正大学大学院修了)の協力を得た。

一 なお、当館では、「海舟日記」を含む館蔵勝海舟関係文書のマイクロフィルムによる閲覧を実施している。「江戸東京博物館史料叢書 勝海舟関係資料 文書の部」(平成十三年刊)に、「江戸東京博物館所蔵勝海舟関係文書 マイクロフィルム版目録一覧表」を付したので、あわせて利用いただきたい。

江戸東京博物館
史料叢書

勝海舟関係資料 海舟日記 (三)

発行日 平成十七年二月二十八日

編集 東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室

発行 東京都

(財)東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館

〒一三〇一〇〇一五

東京都墨田区横網一丁目四番一号

TEL 〇三―三六二六―九九一八 (研究室)

FAX 〇三―三六二六―一八〇〇二

印刷 (株)勝田印刷

ISBN 4-924965-50-2C0021